

2023年3月25日

豊陵会 事務局御中

高校 30 期 F 組 松井幹雄
178-0064 東京都練馬区南大泉 4-26-7
<https://www.facebook.com/mikio.matsui>

いつもお世話になっております。 高校 30 期卒業の松井幹雄と申します。

この度、「橋をデザインする」と題する、橋梁設計に関する書籍を 8 名共著で出版しましたので、謹呈させていただきます。

本の内容としては、橋をデザイン（設計）するにあたっての哲学を、豊富な図版とともに、8つの視点でオムニバス形式に記した、数式等は出て来ない読み物です。

8人がそれぞれ別々の視点で、歴史への眼差し、力学の本質と限界、架設場所に対するリスペクト、創造と想像、問いを問うこと、等、共通する概念が時々、適度に繰り返し出てきますので、一通り読んでいただくことで、「橋をデザインする」際の大事なことが体に染みこむようになっている、と思います。

また、日本を代表する建築家の内藤廣氏から推薦文をいただいています。

**橋は文明が勝ち得た偉大な技術であると同時に文化だ。だから、美しい橋は人を幸せにする。
美しい橋は人の人生を彩る。そんな橋の作り方がここには書かれている。**

私は第4章「未来を拓く設計を目指して」を担当しています。

「橋をデザインする」プロセスの重要点として、周辺景観や地域特性、文化への理解と、それらへのリスペクトと調和に資する創造性の発現があります。第4章ではその点を説明したい、との考えで執筆しています。

▼まず、橋の文化面を理解する上で、歴史の大きな流れを理解することが大事であることを記しています。続いて、現代の事例紹介として、土木学会田中賞あるいはデザイン賞受賞作から、性格の異なる下記の3橋（当社設計）を取り上げています。（旧橋の架替え、橋梁群としてのあり方、新設）

▼富山大橋は、背景となる立山連山への眺望と、旧橋の面影の継承、をテーマとして。

▼築地大橋は、勝鬨橋へのリスペクトと、次世代への期待をどのように形にするか、をテーマとして。

▼各務原大橋は、大河を挟んで同じ自治体（合併）となる理念の表現、をテーマとして。

▼最後は、「橋をデザインする」プロセス概要と、計画初期段階にプロトタイプを制作する重要性を提示して、次世代の方々の実践につながることを期待して締めくくっています。

出来れば、高校図書館においていただき、土木工学や建築学に進もうと考えている生徒達の目に触れると嬉しいと思いつつ送付する次第です。ご配慮いただけるようでしたら、ご検討をお願いいたします。

以上